平成２８年度　伊那市立西箕輪小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標

○よく考え，すすんでやりぬく子

○体を鍛え，たくましい子
○美しさ，温かさのわかる心豊かな子

重点目標（中長期的目標）

１心を磨く　さんをつけて呼ぼう
２学びを磨く　まず，きこう
３体験を磨く　やってみよう

今年度の重点目標

＜人権教育・特別支援教育・生徒指導＞
学年経営を核とした学校組織力の向上・教職員の協働体制の確立

(1)心を磨く　さんをつけて呼ぼう
自分からあいさつ・顔を見てきく・返事・言われていやなことは「しない・言わない」
(2)学びを磨く　まず，きこう
学びの達人（学習の約束・ルール）学び合い（ペア学習・グループ学習）授業のユニバーサル化（見通しの持てる授業），わかる・できる授業づくり，活用する力・発表する力の育成と学習意欲・学習習慣の向上
(3)体験を磨く　やってみよう
食（もの・ひと）への感謝（栽培活動など），異年齢集団の活動（仲良し読書，仲良し清掃など），基本的生活活集団の確立，総合・生活科・生活単元学習・交流学習の充実，対人関係を重視した遊び，持久力の向上

総合評価

○アンケート項目，「授業内容がわかる」「友だち・先生からの承認」については児童，保護者・評議員，教職員に統計的に有意な差は見られなかった（５%水準）。また，「情報発信」「家庭・地域との連携・学校づくり」「子どもの人権配慮」「安心安全」「学習しやすい環境整備」「組織的・協働的な取り組み」でも保護者・評議員，教職員に有意な差は見られなかった。児童，保護者・評議員，教職員ともにほぼ評価が一致しているものと考えられる。反対に他の項目では，児童，保護者・評議員，教職員，いずれかに有意な差が見られた。子ども達に自分の生活について自己評価させ，教師や家庭でのより的確なフィードバックが必要と思われる
○保護者，評議員の方から温かい高い評価をいただいている。地域の信頼に応えられるようさらに教職員が一枚岩になり，組織的・具体的に子ども達を支援していきたい。

成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)あいさつは児童・保護者・教職員・学校評議員ともに昨年並みになっている。 児童＞保護者・評議員・教職員，保護者・評議員＞教職員の受け止め方に有意な差（５%水準）が見られた。時と場によってあいさつの仕方に違いが見られる。「よい言葉づかいをしている」では，一昨年度比較では気をつけている児童が増加した（5%水準，平均3.2）。一方，保護者・評議員の評価は有意に高く（3.3），教職員の評価は保護者・評議員の評価に比べ有意に低くなっている。家と学校での評価のズレがうかがえる。「話を真剣にきく」では児童＞教職員，保護者・評議員＞教職員となっており，学校での子ども達の話のきき方スキルは今一歩である。	A b	(1)引き続き，児童会のあいさつ協力隊・ＰＴＡのあいさつ運動とタイアップさせながら，全校一丸となって取り組んでいく必要がある。 ○本年度は「ふわふわ言葉を使いましょう。」と生徒指導目標，児童会目標，人権旬間目標として掲げ，強力に推し進めてきた。児童の言葉に対する意識は高まってきたように思う。更に，学年経営に位置づけるなど，日常化を図っていきたい。
(2)「授業内容がわかる」「友だち・先生からの承認」については児童，保護者・評議員，教職員に評価の差は見られず，評価が一致してきている。一方，「宿題をやる」については　26・27保護者・評議員より28保護者・評議員が有意に低く，宿題の取り組みはやや低くなっている。	A b	(2)家庭と連携し，「家庭学習の手引き」をもとに，低学年からの「家庭学習の習慣化」をはかりたい。「個別の指導計画」（個への支援），全体への支援（授業　のユニバーサルデザイン）をさらに推し進めていきたい。
(3)「いろいろなことに取り組んでいる」の項目は，保護者・評議員の評価が昨年度に比べ有意に高く，家でいろいろなことに意欲的に取り組むようになったとしている。一方「友だちと仲良く」では保護者・評議員に関して，本年度の方が一昨年度に比べて有意に低くなっており，集団遊びの中で，更に友だちとの関わりスキルを学んでいく必要があると思われる。	A b	(3)ソーシャルスキルトレーニング（SST）の構造化を図り，「なかよしタイム」を更に充実させ，自尊感情を高めていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○特色ある教育活動の展開	○児童，保護者，地域の願いや特色を生かした教育活動の展開ができたか。	○　重点目標として１心を磨く２学びを磨く３体験を磨くを目指して，学力テストの分析や職員の研修の充実でわかる授業を創る，聞くことを大切にした学習・友だちを大切にする名前の呼び方，清掃指導の充実を通して児童の人間性の高まりを図った。また学習ボランティアを募り活用したり，教育課題についてのＰＴＡ学年・学級懇談会で話題にするなど，少しずつ前進はしてきている。今後保護者・学習ボランティアの更なる参加と細部にわたる配慮が課題である。	A b	○児童，地域，保護者より寄せられた個別の案件について，できるだけ敏速に対応するために支援会議を開いたり職員連絡会で報告･連絡をして，対応　策と職員全体への周知を図り，全職員の共通理解のもと同じ姿勢で対応できるようにした。また，12 月からは，学校関係者や保護者から寄せられた学校評価，職員の自己評価をもとに，職員のプロジェクトチームを編成して，その評価を踏まえた来年度の対応策を作り，職員全体で協議している。本校児童の実態を踏まえながらより精選された案にして，保護者や地域の願い，子どもの実態に即した教育課程になるようにしていきたい。
	学習指導	○特色ある教育活動の展開 ○授業内容が「わかる」授業づくり ○家庭学習の充実	(1)児童，保護者，地域の願いや特色を生かした教育活動の展開ができたか。 (2)児童にとってわかりやすい授業づくりを行ったか。 (3)児童が日々の宿題を自発的に行うことができたか。	(1) 重点目標として１心を磨く２学びを磨く３体験を磨くとして，学力テスト結果の分析日々の子どもたちの姿を基に研究・研修を充実して，子どもがわかる授業を創るよう心がけてきた。また，保護者や地域の方にも積極的に教育活動に参加していただくために，学習ボランティア等で参加型の支援をお願いし実施してきた。評価は良くなってきているが，細部においては，課題も残っている。	A b	○児童，地域，保護者から寄せられた個別の案件の対策を職員全体で意見交換をして，検討を行う。また，学校の主役が子どもたちになるようにプロジェクトチームを編成し，来年度の教育課程について検討をする場をもつ。 ○保護者の課題に対応していくために，学級懇談会など意見が出される場を大切にしたい。そして地域･保護者からの進言があったときには，職員連絡会を持ちながら，職員全体で周知徹底し様々な教育ニーズに敏速に対応していきたい。
				(2) 職員間で授業を見合い，子どもの視点で意見交換を行って，子どもが興味・関心を持ったり，追究が可能になったりする資料の活用方法を考え，どの子どもにとってもわかりやすい授業になるように授業の改善を行ってきた。また，年３回ほど外部講師を指導者に招いて授業研究を行い，日々の取り組みを見返す機会とした。授業内容について概ねわかる児童が，９０%を占め評価を得ることができたが，わからないと回答をした児童もまだいる。	A b	○よりわかる授業をめざすために，今後も子どもたちの実態に即した研究の場を進め，職員の更なる授業力向上を図る。 ○特別な支援を必要とする子ども達にとって，どのような面で支援を必要としているのか，どのような授業環境がよいのかを全教師で探り，より多くの子がわかる授業づくりを進める。
				(3) 年度当初に「家庭学習の手引き」について職員で検討し，細部について修正を行って全家庭に配布し，学年通信保護者への啓発をさらに図るため，学期に１回「家庭学習がんばり旬間」を設定し，家庭で保護者，子どもが自己評価する場を作るようにした。一定以上の評価を得ることができたが，さらに家庭学習の定着を図りたい子どもたちの姿も見られることが今後の課題である。	A b	○家庭学習強化旬間は少しずつ成果が出てきており，保護者からも肯定的な意見が出されている。今後も引き続き，学期ごとに家庭学習強化旬間を設けながら，保護者と協調して子ども達の家庭学習を指導する。
	生徒指導	○児童理解に基づいた指導 ○適応指導と人権感覚の育成	(1)児童の気持ち・心情に寄り添った対応ができたか。 (2)家庭との綿密な連携ができたか。 (3)児童とともに考える指導ができたか。 (4)挨拶や言葉づかいへ意識を高め，自分や相手の命を大切にする気持ちを育てることができたか。	(1)日常的な観察や会話はもちろん，客観的に生活満足度をはかるQ-U 調査を年３回実施し，学級経営に活かしてきた。また自己肯定感が醸成できるよう，児童相互に良さを認め合う活動を積極的に取り入れたり，日課の中にリレーションを高める活動を行う時間を取り入れたりした。	A b	(1)学級経営に生かせる調査を有効に活用していくとともに，表情や日記等に表れた微妙な心情の変化を見逃さず，丁寧に見とっていきたい。また職員間の連絡を密にして，個々の児童の心情に寄り添った指導となるよう心がけていく。また，児童のリレーションが高まるような活動を計画的に実施していく。
				(2)学年通信や学級通信を発行し，子どもたちの学校生活を伝えるとともにその時々の成長や課題を伝えてきた。ＰＴＡの学年・学級懇談会では，行事の打ち合わせ以外にも学年会長を中心に子どもたちの生活や教育にテーマを決め，話し合いをするような取り組みを始めた。今後この活動が定着するようにさらに改善が必要である。	A b	(2)授業参観後の学級・学年懇談会をし，ＰＴＡ役員が中心となって保護者の関心のある懇談テーマを設定するように取り組みを始めた。今後参加者が増えるよう通信で呼びかけたり，定着したりするように継続していく。生活のきまりについては，年度当初に学校の指導方針を家庭に伝え，共通理解の上，協力してもらうようにしていきたい。
				(3)児童会で学校の良さ，課題，自分たちが取り組みたいことを考えて計画・実施するようにした。また，生活や学習のルールについての指導の場では，なぜそのルールが大切で守る必要があるのかも一緒に考え指導するようにした。自分たちで考えて取り組む姿が増えつつあるが，より多くの児童に見られるようにしたい。	A b	(3)児童会係及び本部役員とともにその時々の生活課題を話し合い，月の生活目標を児童の側から考え決めだしていくようにする。また，生活や学習のルールについてなぜ大切なのかも併せて指導することで，主体的に児童が考え判断する姿が増えることを目指す。また，児童会活動と連携し，自分たちの良さと課題を児童が見つめ，活動に生かせるようにしていく。
				(4) 毎朝の児童会の挨拶運動（「あいさつ協力隊」），ＰＴＡの挨拶運動（「ハイタッチ運動」）により，元気な挨拶ができている。今後，より多くの場面で挨拶ができるようにしたい。言葉遣いについては，４月当初に生活集会を開き，挨拶や「さん・くん」づけで呼び合うことの大切さを全校に指導した。月の生活目標に掲げて集中的に取り組ませたり，人権教育週間・旬間に学級や学年で考える機会を持ったりした。しかし，「さん・くん」をつけることが定着するには今後も継続して取り組んでいくことが大切である。特別支援学級について理解が深まるように，全校集会を開き，皆それぞれに特性があること，特別支援学級で学ぶ友だちもそれぞれの特性を生かしてがんばっていること，様々な人がいる社会でみんなが助け合い協力し合って生活していくことが大切なことを話した。今後はこの内容を具体的な行動に結びつくようにしていきたい。	A b	(4)年度当初の全校集会で，挨拶や「さん・くん」づけなどの基本的な生活のルール，みんなが協力し助け合って生活することの大切さなどについて全体指導をする。また児童会とも連携して児童が主体的に取り組む姿が増えるようにする。 ○気になる「言葉づかい」については，できるだけその場で指導し考えさせるようにするとともに，人権週間・旬間や児童会の活動にも言葉遣いの大切さを理解したり実践的な態度を身につけたりするための活動を取り入れ，計画的な指導も行っていく。 ○挨拶，言葉づかいなど自他を大切にすることについて，実態を通信等で伝えたり，懇談会の話題にしたりするなど地域や家庭の協力を呼びかける。特に気になる姿を見せる児童については，学年会や支援会議などで，その背景となる要因を探り，指導の方向を見出していく。
学校運営	安全	○安心安全の確保	○児童の安全について意識し，安全が確保できたか。	(1) 保護者への安心安全メール配信登録を呼びかけ，登録率が高まった。緊急時，災害時等には，学級連絡網に加え，メール配信を迅速に行った。 (2) 地域の「安全ひまわり隊」と連携し，「１」の付く日に行う職員による放課後の一斉巡回を行った。月 1 回は，全校集団下校を実施し，職員も同行し指導にあたった。 (3) 昨年に引き続き，今年度も保小中合同の避難訓練・引き渡し訓練を行った。さらに，お互いを意識しながら落ち着いた訓練ができた。 (4) 昨年と同程度の良い評価であったが，不安を感じる保護者もいるので，さらに安全面に配慮していく必要がある。	A b	○連絡網に加え，メール配信登録を呼びかけていく。できるだけ早く，正確で，分かりやすいものになるような体制を整えていく。 ○交通ルール遵守については，適宜指導していく。児童には，学級は勿論，学年集会や全校集会などでも交通安全のルールを守ることの大切さを伝えていく。 ○地域の安全については勿論，学校敷地内の安全についても PTA と協力して進めていく。 ○さらに保小中のつながりを密にしていく。
	地域との連携	○学校行事，参観日，おたより等を通しての情報の公開・発信や学校理解 ○地域の活用	(1)運動会，音楽会等の学校行事，学年･学級懇談会，各種のおたより等で，学校の様子を積極的に知らせたか。 (2)地域の素材等を生かした教材や保護者・地域の方々に参画してもらう活動ができたか。	(1)学校・学年・学級だよりを定期的に出し，具体的な子ども達の様子を伝えることで，理解を深めていただくよう努めた。保護者や地域の方からは，昨年度と同様に良い評価が得られた。一日公開や授業参観，懇談会等を通して，できるだけ学校の様子を伝えるようにした。保護者や地域の方からは，概ね良いという評価をいただいたが，懇談会の参加者を増やしていくことが今後の課題である。	A b	(1)「お便り」については，配布前に多くの人が目を通すことで，より分かりやすいものにし，行事などの早めの連絡，保護者の方々の意見を聞くなどして改善に努めていく。 ○参観日以外でも自由に授業を見ていただいたり，参加していただいたり，懇談会の回数を増やしたりしていく中で，学校での様子や指導方針をより知っていただくようにしていく。また，懇談会の内容をさらに充実させ，参加者を増やしていきたい。
				(2)いそしみタイム(学習)や，読み聞かせ，ドリルの○つけ隊，クラブ活動等に地域の方にボランティアで入っていただき，子ども達の学力向上につながってきている。 ○「総合的な学習の時間」で，地域の方々の協力を得ながら，２年生（大豆）3年生（りんご）4年生（羽広かぶ）5年生（羽広かぶ・お米）6年生（アマランサス）を使った学習を深めることができた。	A b	(2)行事に明確なねらいを持って実施し，それを家庭・地域と共有していく中で，つながりを深めていく。 ○伊那養護学校との交流，いそしみタイム，クラブの活動など大事なものと捉え，地域との協力を仰ぎながら進めていく。○保・小・中の活動（交流会，合同音楽等）を推進していく。○コミュニティースクールを行っていく中で，学校は日頃から開いていることを，その都度，発信していく。
	研修	○教師力向上のための専門職としての研修，修養の取り組み	(1)授業改善をはじめとして，研究会，研修会，講演会を通して自らを高めることができたか。 (2)自ら率先して研修と修養に励むことができたか。	(1)(2)本年度の校内研究は，特別な支援を必要とする子を窓口とした授業づくりを追究し，みんながわかる･できる授業を目指した。３グループに分かれて，子ども達の実態，発達段階，教科性、教材化など様々な要素を考慮して授業作りをし，外部講師を招いて授業研究会を行った。その結果，より意欲的に取り組んだり，学習内容について理解が深まったりした姿が見られた。今後は各グループの成果を全職員に広め，日常的にこのような授業作りに取り組めるように研究体制や職員の連携を考えたい。	A b	○互いの授業や他クラスの子どもの姿を複数の目で見て，複数の職員が協調して支援できるようにするため，公開授業の参観だけではなく，学年で合同授業を行うなど授業形態を柔軟に考えて機会を作るようにする。また，成果を共有する方法として職員会の児童理解の時間や通常の研究教科会で子どもの姿や成果を語ることを大切にし，共通理解を図っていく。